

■ 地域で医師を育てる時代へ！

地域の若手医師が充実した研修を受けられるためのスキルアップセミナーや、大学の授業では得られないエッセンスを体験してもらうための医学生向けセミナーなど、臨床研修病院が共催で開催しています。



レジデントセミナー

研修医のレベルアップを目的に県央県北地区や県南地区で定期的に開催しています。すでに県央県北地区は5回、県南地区は2回開催しており、毎回、各病院の研修医が持ち寄った症例を発表・検討しています。

共催病院

(県央県北地区)

水戸済生会総合病院、水戸協同病院、県立中央病院、(株)日立製作所ひたちなか総合病院 (県南地区)

筑波大学附属病院、東京医科大学茨城医療センター、筑波メディカルセンター病院

水戸若手医師セミナー

地域の若手医師のスキルアップのため、臨床研修病院が共催で開催するセミナーです。県内外の豪華講師陣からレクチャーが受けられる充実した内容となっています。

共催病院

水戸医療センター

水戸協同病院、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター

水戸医学生セミナー

全国の医学生に水戸地域の充実した研修医教育体制を知ってもらうためのセミナーです。すでに3回開催されており、チーム制による内科鑑別疾患やJPTEC講習及びメディカルラリーなど、大学の講義では体験しにくい内科と救急のエッセンスを学べます。

共催病院

水戸済生会総合病院
水戸協同病院、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター

この他、病院単独で開催しているセミナーもあります。開催のご案内やその結果を「茨城県医師確保支援センター」ホームページやブログで、随時紹介しています。ぜひご覧ください。

まもなく開催！

ハワイ大学外科教授 町淳二先生の 臨床研修に関する講演会

開催日時：平成23年4月5日(火) 17:30~19:30

テーマ：研修医向け

「Problem-Based Conference の実際」

指導医向け

「医学教育改革・臨床研修の開国」

開催場所：取手協同病院

第6回 茨城県北県央レジデントセミナー

開催日時：平成23年5月26日(木) 19:15~

テーマ：症例検討

指導医レクチャー など

開催場所：(株)日立製作所ひたちなか総合病院

「小児救急の現場で活躍する人材を、育てていきたい」～小児科医からのメッセージ

日本ACLS協会PALSプロバイダーコースでインストラクターを務める今井先生に、小児救急や小児科医の仕事の現状、やりがいについてお話いただきました。

●重症患者を見落とさない

…小児救急の現状と必要性は？

現状は、人が全然足りません。小児救急は、大人と同じように三次救急まで対応します。ちなみに今回の講習会は、その三次救急の時に蘇生ができる人たちを育てることが目的です。

小児の夜間救急は、実際には昼間の患者さんと同じような症状です。熱が出たとか、吐いたとか、咳が止まらないとかでみえますが、入院されるのは1,000人診て4人ぐらいです。大人でしたら、救急車で来られるのは重症な患者さんが多いですが、子どもたちは、一番多いのが熱性痙攣なので症状も落ち着いて、その日に帰るといのがほとんどです。しかし、そのなかの砂粒のような重症な患者さんを見落とさないようにするというのが、小児科医の役割です。

●小児医療全体としては良い方向に向かっています

…小児科の医師不足についてはいかがですか？

深刻です。新しい臨床研修制度でいろいろな科を回るようになり、学生の頃は小児科を志したがやめたという人が結構いますから…現状として、病院によっては、小児科医だけでは診きれなかったり、小児科医が1人とか2人の病院もあります。夜間などは、他の科の先生にも協力して診てもらうことが必要になってきます。そのとき、逆に臨床研修制度の良い面が出ます。一度、小児科で研修していると、怖さがなくなるんです。

筑波メディカルセンター病院
小児科医師 **今井 博則**



今井先生には1月29日(土)高萩市総合福祉センターで開催されたAHA-PALSプロバイダーコースの会場でお話を伺いました

小児というのは、大人に比べて比較的複雑な病気はないので、「この患者さんは、朝、小児科医が来るまで待てるかどうか」というのを判断してもらえればいいんです。小児で一番多いのは脱水症状なので、点滴をして、血液検査をしてあげれば、急いで入院しなければいけないか、そうでないかは判断がつきます。初期研修医の先生に3カ月やってもらおうと、点滴は100%入れられるようになります。診たことのない病気は別としても、非常に悪いか、少し待てるか、朝まで待てるかは判断できるのです。実際にできるようになっているので、この臨床研修制度を続けてもらえれば、4～5年後には小児科としては良いパターンになると思います。夜間に小児科医が少なくても、小児科で研修をした他の科の先生に診てもらえるという利点はあるのではないのでしょうか。

●みんなで協力して診ていく

当然、三次救急も飛び込んできますが、小児科ではない総合診療科の先生や、救命士さん、救急の看護師さんが、今回のような講習会にどんどん参加してくれているので、いわゆる小児医療としては全部良い方向に向いています。さらに言えば、研修医が小児科医になってくれるともっと良いですね。

●子どもの笑顔が何よりの喜び

…小児科医のやりがい、喜びは？

やりがいはありますよ。朝から晩まで1日50人ほどの患者さんを診ますが、子どもの一般的な病気は、非常に早く悪くなるけれども、早く治る。頑張って治療をすれば、ニコニコ元気になって帰っていく。小児科医は、それが何よりの喜びなんだという人が多いですよ(笑)。

…今後の取り組みは？

これからは、後輩の指導に取り組んでいきます。小児科や救急に参加している先生に、自分がやってきたことを伝えて指導していく事が、今後数年間の目標になると考えています。

●茨城には十分に研修のできる素地があります

…医学生や研修医の皆さんへメッセージを

都会には、患者さんがたくさんいます。若いうちにできるだけたくさん患者さんを診て、自分の力を付けたいというのはわかります。しかし、茨城にも患者さんはたくさんいます。地方だと思われていますが、十分に研修できる素地があります。地元、または自分が育った大学のあるところで勤務するのが一番です。研修後の将来性を考えても、茨城の方が良いと思います。ぜひ、茨城に来てください。

■初期臨床研修医のみなさまへ

日本ACLS協会は、アメリカ心臓協会(AHA)と正式に提携した国際トレーニング組織です。AHAの一次救命処置BLS(Basic Life Support)、二次救命処置ACLS(Advanced Cardiovascular Life Support)、PALS(Pediatric Advanced Life Support)、また一般向けのハートセイバーAEDのプロバイダー、各インストラクター、トレーナーを養成しています。茨城県では、日本ACLS協会の協力のもと「救急ライセンス研修」として、初期臨床研修医限定のBLSコースとACLSコースを開催し、研修初期から救急外来や病棟での患者急変時に戸惑うことなく対応できるように、そして将来の各地域救急の指導医となって活躍をしてもらうべく質の高い教育を行っています。

平成23年度は下記の日程で開催予定です。なお改定後の2010ガイドラインで実施します。

<BLS>

日程	場所	定員
8/6(土)	筑波大学	30人
8/7(日)	筑波大学	30人
9/24(土)	筑波大学	30人
9/25(日)	筑波大学	30人
11/26(土)	日立市消防本部	30人

<ACLS>

日程	場所	定員
9/24(土)・25(日)	筑波大学	18人
11/26(土)・11/27(日)	日立市消防本部	15人

※ 受講料の一部を県から補助します。受講申込などの詳細は「茨城県医師確保支援センター」ホームページでご確認ください。

病院紹介コーナー

東京医科大学茨城医療センター

東京医科大学茨城医療センターは茨城県南部稲敷郡阿見町に位置し、昭和23年より現在地にて診療を行っています。東京医科大学には大学病院(西新宿)、八王子医療センターと当院の3つの病院があり、特性を活かした診療・教育・研究を行っています。当院は地域密着型の大学教育病院として、専門的診療、救急診療を行うだけでなく、医学部5年生、6年生の臨床実習も行っています。研修医は東京医科大学出身者の比率が多くなりますが、茨城県出身の他大学出身の研修医も毎年マッチしています。指導医の出身大学も多様なので、学閥などを気にする必要はありません。研修プログラムは2年間スーパーローテーションを行います。2年次7ヶ月間の選択期間には幅広い選択が可能であり、キャリア形成の準備期間として活用することができます。2年間継続してER当直を経験する中で、多彩な症例に接し、自ら考え、実行し、



適切なフィードバックを受けることができます。研修医は教えられるのを待つのではなく、教えることの大切さも実感しつつ暖かい雰囲気の中で大きく成長してくれます。ぜひ一度見学に来て頂けると嬉しいです。

Relay Essay 研修医リレーエッセイ

水戸赤十字病院
初期臨床研修医 **山川 千夏**



私は水戸から遠く離れた沖縄出身で、出身校も琉球大学ですが、縁あってこの水戸赤十字病院で研修生活を送るようになりました。

国家試験の合格から1週間で、慣れない土地で不安でいっぱいの中、研修医生活を始めて、早くも1年が経とうとしています。想像していた以上に充実し、やりがいのある毎日を送っています。

同期、先輩の研修医が少ない環境は当初、不安材料の一つではありましたが、実際に働き出して、多くの経験豊富な専門医の先生方に、マンツーマンで最初から指導してもらえる贅沢な環境である事に気づきました。

傍らで指導医に見守ってもらいながらさまざまな手技を経験できます。当直や診療でも、自分で検査をオーダーし、一

応診断してみて、治療方針を立ててから、指導医に相談する。研修医といえども医師としての主体性を問われる環境は、真剣勝負で、自分がチームの一員である事を実感します。

研修医としてもうすぐ1年ですが、痛感しているのが自分の知識のなさです。学生時代のいわゆる「机の上の勉強」が、こんなに大切だったことを分からず、日々のテストを一夜漬けなどで乗り切ったことが今更ながら悔やまれます。

研修医として働き出すと、なかなか本を開く時間がありません。今出来る勉強をいかに丁寧にやるか、自分の頭でどれだけ考えてきたかで、賢い研修医になるかどうか決まると思っています。

医学生のみなさん。基礎ほど大切に、全力で勉強してください。

県内の臨床研修病院の見学ができます。

各臨床研修病院では、医学生向けに病院見学を随時行っています。各病院の内容やアピールポイントは次のとおりです。

医療機関名	内容・アピールポイント等	医療機関名	内容・アピールポイント等
水戸赤十字病院	県内唯一の基幹災害医療センターとして、日本DMATを有し、災害時には救護班を派遣する地域中核病院です。安全な医療提供を基本概念に症例も多く、プライマリーケアを重視した研修ができます。	霞ヶ浦医療センター	大きな病院ではありませんが、その分各科、各部署との連携がスムーズで一連の「病院業務」が学べます。
水戸協同病院	筑波大学教官を含む指導医師が充実。豊富な症例に加え、屋根瓦方式のチーム診療で研修します。内科系は全て総合内科グループとなり、臓器別枠組みのない診療体制で、Department of Medicineを実現しています。	筑波記念病院	市中病院のフットワークの軽さを利点としています。ご希望に応じた実習となるように調整いたします。
水戸済生会総合病院	総合周産期母子医療センターを有し、隣接する県立こども病院の見学も可能です。救急外来ではチャンスがあればドクターカーに同乗できるかもしれません。	筑波大学附属病院	上級医や初期研修医と一緒に行動し、勤務状況や指導体制に触れられ、研修医の体験談なども聞くことができます。専任医師が研修プログラムを30分以上個別に丁寧に説明、質問に対しても詳しくお答えします。
城南病院	病院内だけでなく、往診・訪問看護や診療所との連携など地域に根ざした医療にふれることができ「患者中心の医療」を感じられる実習になると思います。	筑波メディカルセンター病院	当院研修医の1日と一緒に体験できます。夜間の救急外来や専門診療科での手術なども見学することができます。研修医の「生の声」を聞いて、見て、体験してください。
水戸医療センター	救急救命センターを備えた茨城県ドクターヘリの基地病院です。実際に当院の研修医と行動を伴にして、パンフレットなどでは説明しきれない研修生活を体験してみませんか。	筑波学園病院	当院は内科・外科・産婦人科・小児科・麻酔救急のみならず、整形外科や耳鼻咽喉科などの専門的な診療科も見学できます。また、当日はできる限り見学者の希望に対応します。
茨城県立中央病院	基幹型臨床研修病院として厚生労働基準を満たしております。がんセンターが併設されており、医療機器や設備も整っております。救急やがん治療、総合診療科は学生実習に人気があります。	東京医科大学茨城医療センター	ぜひ一度当センターへいらしていただき、生き生きと働く研修医の姿、そして当センターの雰囲気を感じてください。見学内容・見学日についてもご相談の上、決めさせていただきます。
(株)日立製作所日立総合病院	当院は県北地域での中核医療を担っており、救急も多岐にわたるさまざまな症例が経験でき、プライマリーケアも十分に学ぶことができます。大人数での画一的な研修ではなく、個人にあった研修が可能です。	牛久愛和総合病院	総合診療を目指す、広く多領域ローテーションするプログラムや、将来専攻する専門科を中心にローテーションするプログラムなど研修医の希望に沿ったプログラムの選択が可能です。
(株)日立製作所ひたちなか総合病院	リニューアルオープンした先進的病院です。本年4月から社会連携講座も始まり、筑波大教官の赴任で指導医が一層充実します。筑波大、東京医科歯科大、VHU機構病院との交流が盛んです。ぜひ見学に来てください。	つくばセントラル病院	「一人の人を大切に医療」との法人理念のもと地域密着、急性期医療、プライマリーケアの専門病院としての機能の充実に努めています。
なめがた地域総合病院	人口10万人対医師数が日本全国で下から4位の医療圏において地域医療の崩壊を何とか阻止しようと奮闘している病院です。どのような医師が必要とされているのか、実感できるでしょう。	JAとりで総合医療センター(取手協同病院)	千葉県北部から茨城県南部をカバーする第一線の基幹病院です。初期の救急医療から高度医療まで広範なトレーニングが可能です。昨年の救急搬送は4,314台でした。
鹿島労災病院	地域最前線の救急医療と日本有数の和漢医療が体験できます。	総合守谷第一病院	春休み、夏休みにて長期の実習も可能です。地域の総合病院として幅広い診療を行っています。希望に応じて見学内容を調整します。
土浦協同病院	随時(平日)受け付けております。診療科ごとの見学体制をとっております。各科医師が親切丁寧に案内します。また、当院での研修医も現場視点で話してくれます。	友愛記念病院	外科系指導医が、現場の見学を中心に、研修プログラムの説明や、病院の特徴を紹介します。また、研修医と一緒に現場を体験し、研修医としての体験談やアドバイスを聞くことが出来ます。
		茨城西南医療センター病院	希望に応じてプログラムを組みます。救命救急センターでの1次から3次救急診療への参加も出来ます。(当院見学も可)

見学時期、対象学年、宿泊情報、問い合わせ先などの詳細は、茨城県医師確保支援センターホームページに掲載しています。「機関紙いばらきの地域医療」のページをご覧ください。

茨城県からのお知らせ

茨城県医師修学資金貸与者の募集

- 募集人数：10名
- 貸与月額：10万円
- 対象者：県外大学の医学部に在籍する本県出身者及び筑波大学医学群医学類在籍者（県内出身・県外出身は問わない）

- 返還免除：貸与期間と同じ期間を県内の医師不足地域の医療機関で勤務した場合
- 申込期間：平成23年4月1日（金）～4月26日（火）※当日必着
- 面接日：平成23年5月6日（金）
- 面接会場：県三の丸庁舎3階会議室
※詳細は下記ホームページをご覧ください。

茨城県医師確保支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp